

# 手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2016年11月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメールshi ga.minken@gmail.com  
 HP: http://shi ga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

## 「学校スタンダード」ーその問題点

滋賀県研副理事長 山田 稔

今、「学校スタンダード」が急速に広がっています。これは、ゼロ・トランス(寛容度ゼロの生徒指導)と同じく、もともとはアメリカで始まったものです。それが、「教育改革」のすすむなかで、地教委や学校毎に取り入れるところが増えてきたのです。

各地の学校で定めている「〇〇校スタンダード」は、多くの場合、学校生活全般、とりわけ生活規律を規制するものが多いように思います。たとえば、

「登校して荷物を整理したら、朝の会が始まるまで席に座って読書を読みます」

「家を出たら、登校途中に忘れ物に気づいても取りに帰りません」などと、ことこまかく、子どもたちの生活を規制しているところが共通しています。

私は、次のような問題点があると思っています。

①一人ひとりの子ども、一人ひとりの教師は、それぞれ個性的な存在である。「スタンダード」な人間など

は存在しない。「みんなちがって、みんないい」(金子みすゞ)はずである。それなのに、なぜ、すべての子どもたちを同じ枠にはめこもうとするのか。

②子どもたち一人ひとり家庭環境も違えば、親の生活状況も違っている。母子家庭の子ども、朝食も食べられずに登校する子どもも増えている。教師は、そうした子ども一人ひとりの状況をよく見て、それに応じた働きかけをするのが当然ではないか。

③子どもは、つまずきながら歩む。失敗を繰り返しながら成長していく。決められたことに従順に従わされて、伸び伸び成長していきけるだろうか。

④教育とは、子どもと教師との人間的なふれあい、信頼関係のもとでなりたいつ営みである。決められたことを有無を言わず押しつける教師に、子どもは魅力を感じるだろうか。信頼を寄せるだろうか。「学校スタンダード」は、子どもと教師の人間的なふれあい、信頼関係を壊してしま

子どもたちを締めつけるゼロ・トランス、そして子どもと教師を一つの枠にはめこむ「学校スタンダード」ーこれらが日本の学校をおいしくしたら、個性的で繊細な神経をもっている子どもたちは学校に行きづらくなるに違いありません。

安倍内閣のもとで「戦争法案」が強行され、「戦争をする国づくり」が着々とすすめられています。そして、そのために「戦争をする人づくり」を推進しようとしているのです。そうしたなかで、このように画一的な教育方法が広がっていくことに、私は強い危機感を抱いています。(やまだみのる)

### 《 今月の紙面 》

新学習指導要領

- ・【巻頭言】 「学校スタンダード」ーその問題点/山田稔……………P1
- ・学習指導要領の改訂のポイントと問題点/八木英二……………P2・3
- ・新学習指導要領論点整理を議論するうえでの現場視点からの論点整理/近藤恭司…………… P4・5
- ・戦後滋賀の学校史ー原点から展望するーその2/木全清博……………P6
- ・今あらためて「一人ひとりが大切にされる社会」を考える/福田真樹……………P7
- ・【今、学校で】「ゆれる心を支え合い、学び合う」/山岡雅博……………P8